

Keyword：精神科入院患者，生活リズム調整，理学療法介入

【はじめに】関節リウマチ(以下 RA)の長期罹患，ステロイド服用，癌治療による活動性低下は廃用や関節変形を複合的に引き起こし，ADL 低下を助長する。更に，認知機能低下を併発すると精神症状を伴い在宅生活が困難となる。今回，RA・廃用・認知機能低下を呈し，精神科に入院した症例を経験したため報告する。

【症例紹介】60 歳代女性。診断名はアルツハイマー型認知症，RA や乳癌，右膝人工関節術後の既往あり。乳癌治療開始後，臥床傾向となり廃用が進行。入退院を繰り返し，肘骨折を経て，施設入所後も精神症状が続き，精神科入院。ステロイド服薬あり。HOPE は「動けるようになりたい，家に帰りたい」であった。

本発表に際し，本人・家族，当院倫理委員会より同意を得た。

【初期評価】全体像：AM 傾眠強く，PM は大声あり。両足趾の変形著明。MMT：下肢 3-4 体幹 2(左右差なし)，FBS：7/56 点，10m 歩行：実施困難，HDS-R：13/30，MMSE19/30 点，ADL：トイレ動作は困難，その他は中等度介助

【問題点】廃用による筋力・バランス能力低下，昼夜逆転や大声等の精神症状，認知機能低下

【治療内容】下肢・体幹筋力増強訓練，バランス訓練，ADL 訓練を主体とし，生活リズムの調整(日光浴・離床訓練)を日課とした。

【結果】昼夜逆転や大声は消失し精神症状は軽減した。筋力は MMT 下肢 4-5，体幹 3 へ改善。FBS は 25/56 点，10m 歩行は PUW で可能となり 10.67 秒/22 歩。認知機能は HDS-R17/30 点，MMSE23/30 点。トイレでの排泄は意欲無く困難であったが，ADL 動作は見守りまで向上した。

【考察】日課とした日光浴や離床訓練は概日リズムを整え，夜間の入眠を促すことで結果的に昼夜逆転や大声等の精神症状の軽減と認知機能向上に繋がった。これにより理学療法介入が円滑化し，筋力・バランス能力の改善が得られ，FBS は 25 点に向上，ADL 動作は見守りへと向上した。これらは理学療法士が身体機能改善に留まらず，精神症状改善にも寄与することを示唆する。一方，トイレ動作可能となったが，トイレでの排泄は本人の希望に含まれず，オムツ生活の慣れや意欲減退も要因となり実現は困難であった。更に，自宅環境や家族の介護力など複数の社会的要因が影響し，自宅退院に至らなかった。環境要因や心理的要因は ADL 自立を左右する点で重要であり，多職種による支援が必要と考える。

【結論】本症例においては，身体機能改善に留まらず，生活リズム調整を含む理学療法介入を行うことで精神症状が軽減し，ADL の改善に有効であった。